

錦鯉の楽しみ

錦鯉は日本の国魚

錦鯉は日本の国魚と呼ばれる観賞魚です。鯉は中央アジアが原産と言われていますが、色の付いた鯉を現在のような美しい観賞魚にまで作り上げたのは、新潟県山古志郷の人々です。現在では、美しく変化に富んださまざまな品種が新潟以外の地でも生み出されています。錦鯉の色は赤・白・黒を基調に、青・藍・紫・緑・黄・茶・橙色や金・銀など実に多彩な色があります。また、錦鯉の色彩は変化します。環境に左右されることが大きく、時間・天候・季節によっても変化します。これも飼育の面白さのひとつです。



錦鯉は山深い新潟の地で生まれた。急峻な山を開墾した棚田池には、美しい錦鯉たちがゆったりと泳いでいる。

錦鯉は飼いやすい

昔は鯉が冬を越すのは難しく、仮に冬越しできても春先には死んでしまうことが多かったため、鯉は短い間の消耗品と考えられていました。しかし、現在では飼育上の難題はすべて解明されており、要領さえ会得すれば、手軽に飼育できる観賞魚になっています。

鯉は魚体に蓄えた栄養分を運動エネルギーに変えることができるので、数日間なら餌を与えなくても飢え死にすることはありません。おもに市販の錦鯉用の餌を与えますが、雑食性なので人間の残飯などで飼育することも可能です。環境に慣れやすく、急激な水温・水質の変化さえなければ、かなりの適応力があります。

水さえあれば、どんな器でも飼育は可能です。大きい池でないと錦鯉を飼えないと思っている人が多いようですが、最近では小さな錦鯉を水槽で飼育する愛好家も増えています。

錦鯉は買いやすい

一般的に錦鯉は値段の高い観賞魚とされているようですが、稚魚ならば数百円から数千円、成魚でも根気よく探せば数千円の掘出物に当たることがあります。研鑽努力すれば、鑑賞眼が身に付いて、将来性のある稚魚や幼魚を格安で入手し、的確な飼育技術で素晴らしい逸品に仕上げ、品評会で上位入賞することも夢ではありません。事実、最近では毛子から飼育した鯉や愛好家の自家産鯉が品評会で続々と入賞しています。

錦鯉を入手する場も多様化しており、専門の養魚場のほかにペットショップやインターネットでも購入することができます。

鯉は縁起のいい観賞魚

「鯉の滝登り」に喩えられるように、鯉は勇壮で生命力が強く、武士魚とも称えられ、また立身出世のイメージもあります。

飼育はとても簡単で、品種も豊富、しかもその色彩は多彩で、池に錦鯉を放てば一幅の絵画にも等しい美しさです。まさに「観賞魚の王様」と言えるでしょう。